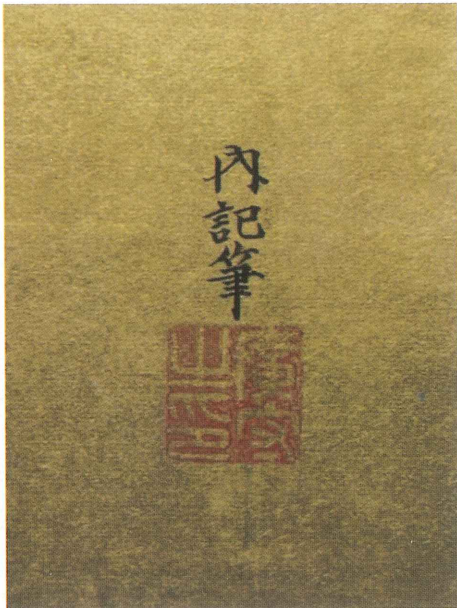


紙本著色四季耕作図屏風



〔指定年月日〕平成一六年三月二四日
 〔種別〕有形文化財（絵画）
 〔名称〕紙本著色四季耕作図屏風
 〔点数〕一 双
 〔所有者等〕眞盛寺
 〔所在地等〕梅里一―一―

紙本著色四季耕作図屏風

本屏風（高さ一五九・三cm）は、六曲屏風一双を用いた横長の大幅面に農家の庭先や田圃にくり広げられる稲作作業の様子が描かれた四季耕作図の一種である。

右隻（幅三五五・八cm）右端の春の魚取りから始め、苗の準備、田植と各作業の順に左方に描き進み、夏の草取り、灌漑までを表し、左隻（幅三七五・八cm）に至り、秋冬の稲刈り、脱穀、俵詰めまで、全体で稲作に関する二〇に近い場面が配置される。背景には、各作業が行われる季節を示す遠山が添えられる。画中には農作業の外に獅子舞、猿廻し、収穫祭などの農村の四季の風物も描き加えられる。

本図は、一般の四季耕作図とは対照的に農家とそれを取りまく人々を少し大きく描き、各画題を近接させて充実した配置を試みて生彩に富み且つ活気溢れる画面を構成している。とくに獅子舞などの賑わいを描き添えたこと、これらの遊芸の人々の踊る姿と衣服、田楽踊りと田植する人々の衣服とが晴れ着のように華やかな色調に表わされたことが画面に効果を与え、本図を優作とさせている。農作業の描写は正確であつても収穫に向けてひたすら作業する人々の躍動する気持ちは表わせており、やまと絵の四季耕作図の中では力作として評価できであろう。

画中に「内記筆」の落款と「廣守之印」（白文方印）の印章を捺した筆者は、住吉廣守のことで、安永六年（一七七七）

一〇月二二日に七三歳で没したことが知られる。生年は、宝永二年（一七〇五）。廣守は住吉家中興の名手と言われ、内記と称し、宮廷や幕府の御用をつとめた。

本図は、収穫に向けてひたすら作業する人々が、華やかに描かれており、やまと絵の四季耕作図の中では優品として評価できる。また、住吉家中興の名手と言われた住吉廣守の現存する作品はあまり知られておらず、本図のような六曲一双の大作は貴重である。

【文化財所在地】

